

PAT-NO: JP402024762A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 02024762 A
TITLE: TRANSACTION PROCESSOR
PUBN-DATE: January 26, 1990

INVENTOR-INFORMATION:

NAME COUNTRY
KASHIO, TOSHIO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME COUNTRY
CASIO COMPUT CO LTD N/A

APPL-NO: JP63175404
APPL-DATE: July 14, 1988

INT-CL (IPC): G06F015/21 , G06F015/22

ABSTRACT:

PURPOSE: To unify ledgers for entering transaction data and to store the unified ledgers in a file to totalize the contents by regulating the unit of accounting by an item corresponding to an ordinary accounting subject and a customer's item indicating the position of the item.

CONSTITUTION: When a transaction is generated, an operator specifies the sort of the transaction by a key input part and successively inputs data corresponding to respective reference words. When an input processing part 2 forms a reference slit record for one transaction based upon the input data and writes the record in a reference slit file 3, a record forming part 5 reads out the reference slit record and forms a pair of accounting records by referring an accounting record forming table 6. The accounting records consists of a code using the accounting item of the debit side and a customer as record keys and a code using the accounting item of the credit side and the customer as record keys, the formed accounting records are read out by a file updating part 7 to update an accounting ledger file 8.

COPYRIGHT: (C)1990, JPO&Japio

⑫ 公開特許公報(A) 平2-24762

⑤ Int.Cl.³G 06 F 15/21
15/22

識別記号

Z

庁内整理番号

7230-5B
7230-5B

⑬ 公開 平成2年(1990)1月26日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 取引処理装置

⑯ 特 願 昭63-175404

⑰ 出 願 昭63(1988)7月14日

⑱ 発 明 者 櫻 尾 俊 雄 東京都西多摩郡羽村町栄町3丁目2番1号 カシオ計算機株式会社羽村技術センター内

⑲ 出 願 人 カシオ計算機株式会社 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

明 細 書

1. 発明の名称

取引処理装置

2. 特許請求の範囲

1 取引に関するデータ入力時に、この取引に係る借方側の勘定科目及び貸方側の勘定科目を特定すると共に更に借方側の取引先及び貸方側の取引先をも特定して入力する入力手段と、入力された取引データに含まれる借方側の勘定データにより上記借方側の勘定科目及び取引先をキーワードとした借方勘定レコードを作成すると共に、上記取引データに含まれる貸方側の勘定データにより上記貸方側の勘定科目及び取引先をキーワードとした貸方勘定レコードを作成する作成手段と、この作成手段により作成された一対の勘定レコードにより所定のファイルを更新する更新手段とを備えたことを特徴とする取引処理装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明は、処理取引データをファイルで記憶管理する取引処理装置に関するものである。

〔従来の技術〕

今までの簿記帳簿は勘定元帳、補助元帳、補助簿等と呼ばれ、各企業毎各帳簿毎に記帳様式、内容が異なっていた。これは“勘定”の定義が不明確であることに起因するものであった。即ち、従来、“普通貯金”とか“借入金”“買掛金”“未払金”等の科目を1つに勘定単位とみなし、これを“現金”等の勘定単位と対応づけていた。しかしながら“現金”等の勘定は実存する科目であるのに対し“売掛金”等の勘定は実存するものではなく、単に集計したものである。従って実存する勘定を借方側の科目として記帳し、この科目に対応づけて実存しない勘定を貸方側の科目として記帳することは不合理であるばかりでなく、簿記を不明確なものとする原因になっていた。

【発明が解決しようとする課題】

従って従来においては、上記のように勘定を区分けして取引データを記帳する勘定元帳の他に、各種勘定を取引先別に分類した補助元帳を用意する必要がある。記帳の際は上記両元帳に対して、ほぼ同じような内容を併記しなければならないという作業が必要であった。

このことは、近年各企業に導入されているコンピュータによる取引管理についても同様のことが言え、これらコンピュータは上記各元帳に代って各電子ファイルを用意する必要があった。この場合、ファイルで各種データを記憶管理する場合は、そのファイル内のデータを更新するプログラムを設計する必要があるのは当然であり、ファイルの数が多くなければなるほどその設計に要する手間が倍加してしまっていた。

この発明の課題は、勘定の単位を明確することにより取引データを記帳する元帳を統一化し、よってこれを記憶するファイルを1つに集計できるようにすることである。

段（例えば実施例の入力処理部2）と、取引データに含まれる借方側の勘定データにより、上記借方側の勘定科目及び取引先をキーワードとして借方勘定レコードを作成すると共に、上記取引データに含まれる貸方側の勘定データにより上記貸方側の勘定科目及び取引先をキーワードとした貸方勘定レコードを作成する作成手段（例えば実施例のレコード作成部5）と、この作成手段により作成された一対の勘定レコードにより所定のファイルを更新する更新手段（例えば実施例のファイル更新部7）とを備える。

【作用】

この発明の手段の作用は次の通りである。

取引が発生した場合、入力手段により取引データ（金額など）と共に借方側の勘定科目及びその取引先、貸方側の勘定科目及びその取引先とを入力する。上記両勘定科目の入力は実施例のように取引種を指定することにより自動的に入力されても良いし、または手入力により入力しても良い。

【課題を解決するための手段】

まず、“勘定”とは“実存科目”であると定義する。このように定義すると全ての勘定の比較は実存科目どうしの比較となり、従来の簿記のように実存科目（例えば現金）と集計科目（例えば売掛金）とを比較するというような不合理を解消できる。そこで全ての勘定を実存科目として扱えるようにするため、勘定の単位を、従来の勘定科目（普通預金、借入金、売掛金、買掛金、未払金等）に相当する項目とその項目の所在を示す取引先（債権先、債務先等）の項目とで規定する。このようにすると、例えば借方は“現金”で貸方は“売掛金得意先”として記録でき、実存する勘定どうしの対等な記録になる。

上記思想をふまえた本発明の手段は次の通りである。

即ち、この発明は1取引に関するデータ入力時に、この取引に係る借方側の勘定科目及び貸方側の勘定科目を特定すると共に更に借方側の取引先及び貸方側の取引先をも特定して入力する入力手

また“現金”等の勘定科目はそれ自体が実存科目であるため取引先は存在しないため、対応する取引先の入力是不要である。この入力が行なわれると作成手段が起動し、借方側の勘定科目及び取引先のワードをキーワードとする借方勘定レコードと、貸方側の勘定科目及び取引先のワードをキーワードとする貸方勘定レコードが作成される。そしてこの両勘定レコードにより、勘定科目及び取引先のワードをキーワードとするレコードを記憶する勘定ファイルが更新される。

従って勘定ファイルには実在勘定単位（勘定科目と取引先）どうしのレコードが借方側と貸方側とで対に記憶されるようになり、この勘定ファイルだけで各種管理が実現できる。

【実施例】

以下、一実施例を第1図乃至第4図を参照して説明する。

第1図は取引処理装置全体の概略システム構成図を示したものである。図中の符号1はキー入力

部で、このキー入力部1から入力された各種取引データは入力処理部2に入力される。この入力処理部2は入力される1取引のデータに基づいて第2図に示すワード構成からなるレコード（以下標準伝票レコードと言う）を作成して標準伝票ファイル3に書き込む。この標準伝票レコードは、1取引の内容を13の標準ワードに分けて記憶したものであり、このワードの中には、「年月日」「伝票番号」「金額」「担当者」「品目」「数量」「単価」等の各種ワードの他に、取引内容を簿記理論により借方側と貸方側とにわけた勘定科目のワード（「借方勘定科目」、「貸方勘定科目」のワード）、及び両勘定科目に係る取引先及びその細目を明確にするための「借方取引先」「借方細目」「貸方取引先」「貸方細目」のワードがある。これらワードのほとんどはキー入力部1により順次入力されるものであるが、「借方勘定科目」及び「貸方勘定科目」の両ワードは入力テーブル4により自動的に入力される。この入力テーブル4は、キー入力部1により指定される取

引種、（「掛売上」、「掛仕入」、「売上返品」……などの各取引種）に応じて「借方勘定科目」及び「貸方勘定科目」のワードに対応するワードデータを出力する。例えば取引種が「掛売上」ならば、「借方勘定科目」のワードに対しては「売掛」ワードデータが、また「貸方勘定科目」のワードに対しては「売上」のワードデータを出力する。

1取引の発生時にこのようにして標準伝票ファイル3に書き込まれた標準伝票レコードは、レコード作成部5に読み出される。レコード作成部5は、標準伝票ファイル3から読み出された1取引に関する標準伝票レコードに基づいて、借方側の勘定レコードを貸方側の勘定レコードを勘定レコード作成テーブル6を参照して作成するものである。この勘定レコード作成テーブル6は作成すべき勘定レコードのワード（ファイルワード）と標準伝票レコードの標準ワードとの対応関係を示したものである。例えば借方側の勘定レコードについて見ると、この勘定レコード「当勘取引先」の

ファイルワード（キーワード）に対応しては「借方勘定科目」の標準ワードと「借方取引先」の標準ワードとを合成したワードが対応すること示し、また「相勘」のファイルワードに対応しては「貸方勘定科目」の標準ワードが対応することを示している。一方、貸方側の勘定レコードについて見ると、この勘定レコードの「当勘取引先」のファイルワード（キーワード）に対応しては「貸方勘定科目」の標準ワードと「貸方取引先」の標準ワードとを合成したワードが対応すること示し、また「相勘」のファイルワードに対しては「借方勘定科目」の標準ワードが対応すること示している。

第3図は、上記勘定レコード作成テーブル6に基づいてレコード作成部5により1つの標準伝票レコード2から2種類の勘定レコード（借方勘定レコード及び貸方勘定レコード）が作成される状態を示したものであり、第4図は、このレコード作成部5における動作を示すフローチャートである。

このように、1取引の内容を示す標準伝票レコードにより、勘定データを借方側の勘定科目及び取引先により分類（キーワードにより分類）した借方勘定レコードと、勘定データを貸方側の勘定科目及び取引先により分類した貸方勘定レコードとが同時に作成されており、このようにして作成された一対の勘定レコードはファイル更新部7に出力される。このファイル更新部7は「当勘取引先」「相勘」「日伝」「借高」「貸高」「当勘細目」の各ファイルワードをレコードとする勘定元帳ファイル8を更新するための更新プログラムを内蔵しており、上記レコード作成部5より送られて来る一対の勘定レコードにより勘定元帳ファイル8を更新する。そしてこのようにして「当勘取引先」をキーワードとして更新された勘定元帳ファイル8内の各レコードは出力処理部9に送られる。この出力処理部9は予め設定されている取引単位別（勘定科目及び取引先別）集計表フォーマット10a、勘定科目別集計表フォーマット10b、取引先別集計表フォーマット10cに基

づいて、各レコードデータの内容を組みかえて印字フォーマットを作成し、プリンタ11に出力して印字を行なわせる。

次に、この実施例の動作について説明する。

取引が発生したら、オペレータはキー入力部1によって取引種を指定して各標準ワードに対応したデータを順次入力する。すると、入力処理部2は入力データに基づいて1取引分の標準伝票レコードを作成し標準伝票ファイル3に対して書込みを行なう。するとレコード作成部5は標準伝票ファイル3に記憶された標準伝票レコードを読み出し、勘定レコード作成テーブル6を参照して一対の勘定レコードを作成する。この勘定レコードは借方側の勘定科目及び取引先をレコードキーとした勘定レコードと、貸方側の勘定科目及び取引先をレコードキーとした勘定レコードであり、1取引のデータを借方側と貸方側とに着目した2種類のレコードが作成される。そしてこのようにして作成された勘定レコードはファイル更新部7に読み出され、勘定元帳ファイル8の更新を行なう。

この更新は勘定レコードの「当勘一取引先」のファイルワードをキーワードとして集計更新されるものであり、勘定元帳ファイル8には「当勘一取引先」のファイルワードの内容別の集計レコードが記憶される。従って、この勘定元帳ファイル8により勘定科目別の集計表を作成できるのはもちろんのこと、取引先別の集計表を作成することもできる。

【発明の効果】

この発明によれば、勘定の単位を、従来の勘定科目（普通預金、借入金、売掛金、買掛金、未払金等の科目）に相当する項目とその項目の所在を示す取引先（債権先、債務先等）の項目とで規定し、この単位で各種取引データをファイル内に記憶管理するようにしたので、従来のように勘定科目に着目して各種財務諸表（貸借対照表や損益計算書等）を作成することかできることはもちろんのこと、各勘定科目を取引先別に管理したり、取引先別の請求書を作成することもできる。従っ

て、従来上記各種資料を作成するためには複数必要であったファイルを1つのファイルに統一でき、ファイルに対する処理プログラムの設計も簡素化できる。

4. 図面の簡単な説明

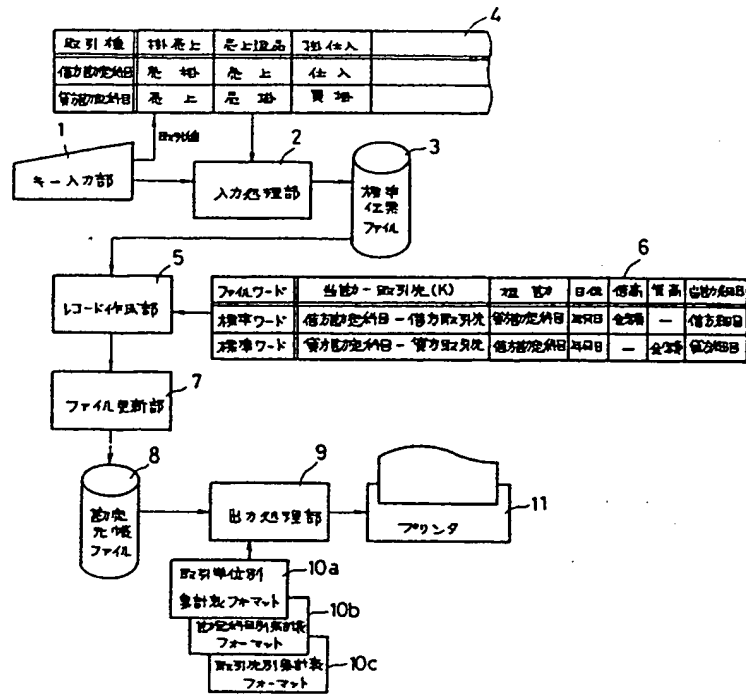
第1乃至第4図は、本発明の実施例を示したものであり、第1図は取引処理装置全体の概略システム構成図、第2図は標準伝票レコードのワード構成図、第3図は勘定レコードの作成状態を説明するための説明図、第4図は勘定レコード作成動作を示すフローチャートである。

1……キー入力部、2……入力処理部、3……標準伝票ファイル、4……入力テーブル、5……レコード作成部、6……勘定レコード作成テーブル、7……ファイル更新部、8……勘定元帳ファイル、9……出力処理部。

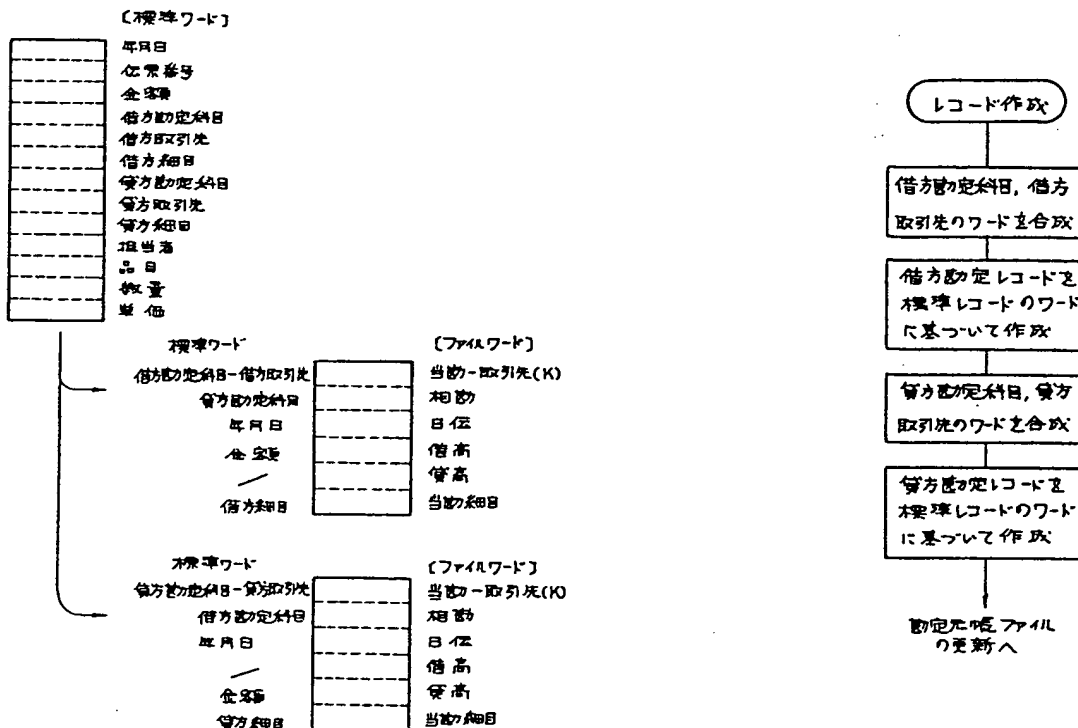
【標準ワード】

1	年月日
2	伝票番号
3	金額
4	借方勘定科目
5	借方取引先
6	借方細目
7	貸方勘定科目
8	貸方取引先
9	貸方細目
10	担当者
11	品目
12	数量
13	単価

第 2 図



第 1 図



第 3 図

第 4 図